

この教材見本は、実際の1カ月分の教材よりも回数・ページ数が少ないダイジェスト版です。

※実際の教材の1カ月あたりの学習量は、1回30分×8回です。

この教材見本は1カ月分の一部を抜粋して掲載しています。下記の黒字が今回の掲載回です。

※テキストスタイルの見本になります。

※添削問題は、「一貫標準」「一貫発展」の問題を掲載しています。

## 随筆：表現・文章展開

※現代文の構成です

- 1 要点学習
  - 2 応用学習 問題へのアプローチ
  - 3 応用学習 読解演習
  - 4 応用学習 知識トレーニング
  - 5 応用学習 速読トレーニング
  - 6 応用学習 記述トレーニング
  - 7 添削問題 添削問題1
  - 8 添削問題 添削問題2
- 巻末 添削指導例

## 要点

## 随筆・表現・文章展開 要点

今回は、表現や文章展開に注意した随筆の読解について学習します。

今回の単元を学習すると……

随筆に特徴的な表現や文章展開を知っておくことによって、文章の内容をより正確に理解できるようになります。

## ■改めて、随筆とは

随筆とは、見聞・体験・感想など、**筆者が折りにふれて感じ、考えたことを、気の向くまま、思いのままに、形式にとらわれずに自由な形で記した文章のこと**を言います。

表現形式も内容もまったく自由なので、一口で随筆と言っても、さまざまなタイプの文章があります。内容面で言えば、文学的なもの、社会的なことがらを扱ったもの、自然科学に関するものから、**一人称で語られる小説に近いようなものから、明確な主張を持ち、論理展開を意識して書かれた、論説文に近いタイプの随筆**もあります。

ですから、随筆というジャンルの特別な読解法があると考えず、文章のタイプに応じて、**論説文などの論理的文章の読解法と、小説などの文学的文章の読解法を柔軟に使い分けることが、随筆の読解では必要**です。

今回はそのような随筆の読み方のポイントを改めて学習しましょう。

〔1〕筆者が思いのままに自由な形で書いたものが随筆

〔2〕したがって、小説に近いものから論説文に近いものまで、さまざまなタイプの随筆がある

〔3〕読解の際にも、論理的文章の読解法と文学的文章の読解法を柔軟に使い分けることが必要

## ■随筆を読む際に心がけること

随筆は、筆者の好きなことを自由に書いた文章と言いましたが、その文章は、必ず読者に向けて書かれています。つまり、問題文として出題される随筆には、必ず何らかの、筆者が読者に伝えたいと考えることが含まれています。この、**筆者の伝えたいことをとらえるのが、随筆の読解の主眼**と言えます。

随筆における筆者の伝えたいことは、筆者に「これは書きとめておきたい」という気持ちを起こさせた、具体的な材料を通じて述べられます。この、**具体的な材料、すなわち題材が、どのように描かれているかをとらえて、筆者の意見や感想をつかむことが、随筆の読解で大切な点**です。

また、随筆の文章は、筆のおもむくままに書き進められることが多い

ため、筆者の主張を述べる場合にも、論説文のように一本の論理の流れに沿って述べられるのではなく、話があちこちへ転びながら、全体としては一つの結論に向かっているというようなものがよくあります。

ともすると、読み手は本筋を見失って、付随的なことがらに気を取られてしまいがちですが、**筆者の主張に直結する記述がどこにあるかに留意することが**大切です。文章によっては、いくつもの部分から読み取れる筆者の伝えたいことを、読み手が自分でまとめあげていくことが必要になるものもあります。

- ・まず題材が何かをとらえ、それがどのように描かれているかを、表現にも注意して読み取る。
- ・筆者の主張に直結する記述がどこにあるか、文章の展開に留意して読む。

#### ■題材の表現のされ方から筆者の考えをとらえる

随筆の場合は、論説文と違って、筆者の主張が明確な言葉で述べられていないことがあります。とくに文学的な随筆では、**一見何気なく書かれている部分に筆者の主張がひそんでいる**可能性があります。

文章の題材となっている出来事や人物の描き方について、その表現を確認し、それが好意的な描き方か、否定的な描き方かを考えてみましょう。**題材の描き方に、その出来事や人物に寄せる筆者の気持ちが表示されている**のです。とくに人物を描いた文章では、人物の具体的な言動をおさえるだけでなく、しぐさや表情、態度の描写にも注意して、その表現に筆者のどのような気持ちが表示されているかを想像してみましょう。**筆者自身の心情を直接述べた部分と、人物のしぐさや表情、態度を描いた部分を合わせて読む**ことによって、その人物に寄せる筆者の思いがより深く

とらえられます。

また、小説と同じように、**自然などの情景描写**にも注意しましょう。人物の心理・心情を描いた文章の中に見られる**自然描写には、それを見る人自身の気持ち**が**投影されている**と考えられます。例えば「庭のけやきの木が動いているように見える」のは、それを見る筆者自身の気持ちが揺れ動いているからなのかもしれません。筆者自身の目を通した自然描写にはとくに注意が必要です。

- ・出来事や人物の描写部分に用いられている表現に注意し、その出来事や人物に寄せる筆者の思いを読み取る。
- ・筆者自身の目を通した自然描写には、筆者自身の心情が投影されていることがある。

#### ■表現技法にも注意する

随筆の中には、筆者が何かを見たり聞いたりした時の「感動」そのものを話題の中心としているものもあります。

しかし、何かを見たり聞いたりした時の感動というものは、感覚的で、本来言葉にしにくいものです。筆者と同じものを実際に見ているわけではない読者に対して、そのものを見た時の感動をどのように伝えるか。それが、書き手の工夫のしどころになるわけですが、そこで使われるのが、**比喩（直喩・隠喩・擬人法）**などの表現技法（＝**修辞法**）です。

一般に、**修辞法が用いられている部分は、筆者がとくに注意を引きたいと考えている部分**ですから、前後の文脈をふまえて丁寧に読み取り、**筆者がその部分でどのようなことを強調したいと思っ**ているのかを必ず確認するようにしましょう。

修辞法（比喩・倒置法など）が用いられている部分

⇨ 筆者が特に注意をひきつけた場合

↓ どのようなことを強調したいのかを考える

### ■文章展開をとらえる

随筆は筆者が経験したことや見聞したことを取り上げ、それに対する筆者の感想や意見が述べられるという展開を取りますが、両者がはつきりと分けて書かれていないこともあります。ですから、**どれが経験・見聞なのか、感想・意見なのかを意識しつつ読んでいく**ことが大切です。

#### 【1】筆者の経験・見聞+感想の場合

筆者が主人公となった小説に近いと考えてください。ですから、文学的文章の読解法が有効です。また小説ですから、場面が過去（回想シーン）から現在へ、また現在から過去へと飛んだりもします。場面場面で、どんなことが起こり、それに対して筆者がどう感じているのかを読み取っていきましょう。

#### 【2】筆者の経験・見聞+意見の場合

これは、論説文に近いと考えてください。ですから、論理的文章の読解法が有効です。ただ、随筆ですから、論説文のように、文章の冒頭あるいは末尾といった文中の特定の箇所だけに着目すればよい、とは限りません。文中のあちこちに示された筆者の考えをまとめて、全体としての筆者の考えを読み取らなければならない場合もありますので、注意してください。

・文中のどれが経験・見聞なのか、感想・意見なのかを意識しつつ読んでいく。

・小説に近いのか論説に近いのかを見極め、それぞれに有効な読解法を用いて読む。

### ポイント

- ・随筆では、題材が何であるかを把握するとともに、題材の描かれ方に注意する。
- ・人物や情景の細かい描写に表れた筆者の考えを見逃さない。
- ・比喩などの表現技法によって、何を強調しようとしているのかを確認する。
- ・文中のどれが経験・見聞なのか、感想・意見なのかを意識しつつ読む。
- ・小説に近いのか論説に近いのかを見極め、それぞれに有効な読解法を用いて読む。

### ！ つまずき防止

筆者が取り上げようと思っただけあって、随筆の題材は非常に興味深いものであったり、笑いや涙を誘うものであったりすることも多い。ついついそこに目を奪われて、それで随筆を「読んだ」と思ってしまうことのないように。あくまでも筆者の言いたいことは、それらの題材に対する感想や意見である。

次のページで「例題」に取り組みましょう。

例題

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 傍線(1)とはどのようなものですか。五字以内で書きなさい(句読点は不要)。


問二 傍線(2)とは筆者のどのような気持ちを表現したものですか。五十字以内で書きなさい。


次のページで「解答解説」を確認しましょう。

## 解説

母親の作る「弁当」、その中でも、とくに「おにぎり」の味わいを題材に書かれた随筆です。

最初に筆者の現在の日常の様子が書かれ、妻が子供に弁当を作るのを見るのが好きだと述べたあと、「子どものころからそうだった」と、筆者の子どものころの思い出に話が移り、その思い出と現在が重ね合わされるという文章の構造になっています。

## 第一段落⇨筆者の現在の日常

第二段落⇨母親が子供の弁当を作るところを眺めているのが好き

第三段落⇨子どものころから、とりわけ母が自分のおにぎりを握って

てくれているのを見るのが好きだった

第四段落⇨母の手の形が作るおにぎりの窪みには、不思議な味わい

があった

第五段落⇨子供が自分と同じような味わいを感じられるように、

しっかりおにぎりを握ってやれ

さて、この文章における筆者の思いの中心は、第四段落で一気にクロウズアップされる「おにぎり」の描写の中にあるのですが、その思いははつきりとした言葉で書かれていません。

随筆にはいろいろなものがありますが、文学的な随筆では、このように筆者の主張が言葉の上でストレートに述べられていないものが多く、その場合、与えられた材料、表現の中から筆者の思いや考えを読み取っていかねばなりません。

問一・問二 この文章では、筆者が「五十を過ぎたいまでも憶えている」という、「母の手の、親指の付け根のふくらみが作る窪み」の「ほかのものにはない不思議な味わい」とは何なのかを考えることによって、筆者の思いに迫ることができそうです。

おにぎりに特定の「窪み」をつけることで、味を変える秘訣ひけつがあるというような話ではありません。この窪みは、おにぎりを握る母の手の形によって、自然にできる窪みだということがポイント。つまりその窪みは、自分のために力を込めておにぎりを握ってくれる、母の手のはたらきを最も感じとれるポイントであり、いわば母の愛情の刻印なのだとということなのです。傍線(1)の「不思議な味わい」とはこの窪みに感じる「母の愛情」(4字)の味わいを言っているのですね。

おにぎりの窪みの不思議な味わい⇨母の愛情

それがわかれば、傍線(2)の妻への呼びかけに込めた筆者の気持ちは、

しっかり握ってやれ。親指の付け根に力を入れて

←

子供も自分と同じ思いができるように、愛情を込めて握ってやれ

←

自分が感じたような母の愛情を子供も感じられるように、愛情を込めて握ってやれ

と整理できるでしょう。

## 解答

問一 母の愛情（4字）

問二 自分が感じたような母の愛情を子供も感じられるように、愛情を込めて握ってやってほしいという気持ち。（48字）

**練習問題**

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

注 \* 玻璃……水晶。またはガラス。 \* 浅間……浅間山のこと。

\* 山景帯……大きさや形の似た山々の連なり。

問一 空欄A Bに適切な語を次のア～エからそれぞれ選び、記号を書きなさい。

ア 短い

イ 長い

ウ 早い

エ 遅い

A

B

問二

傍線(1)はどのようなことを表現したものですか。文中の語を用いて簡潔に説明しなさい。



---

次のページで「解答解説」を確認しましょう。

## 解説

問一 空欄Aは「山の秋」の形容です。それについての、

一日増しに冷えこみ……ある朝、ふいに白い霜がおりたりすると、  
そろそろ紅葉の季節になる

という、あとにつづく説明から、「山の秋」の訪れが平地に比べると  
ウ「早い」ということであろうと考えられます。

空欄Bの主語「それ」は、その直前の「紅葉の季節」を指しています。  
す。「紅葉の季節」はどうだというのでしょうか。山の紅葉の描写は、  
空欄の直後から始まって、第一段落の終わりまで続いています。

そこには、山の樹々の紅葉が「種類により、時の過ぐるに従って色  
彩をかえる」ことが比喩も交えてさまざまに描かれていますが、空欄  
に入れる語の決め手になるのは、その次の第二段落冒頭にある、次の  
一節です。

色彩の饗宴がながながとつづくのに較べて、落葉はなんとあわただ  
しいのだろう

「色彩の饗宴」は、空欄B直後から第一段落終わりまでに描写され  
た、山の紅葉の美を一言で言い換えた比喩表現ですね。「紅葉」が「な  
がながとつづく」一方、「落葉」は一瞬だ、というのがここで筆者が言っ  
ていることなので、Bにはイ「長い」が最適だとわかります。

問二 傍線(1)は、紅葉に彩られた山肌の様子を「いちめんが無数のチュー

ブからしぼりだされ、ありとあらゆる色絵の具で盛り上がったパレッ  
トを連ねたように」とたとえた比喩表現です。この比喩の言いたいこ  
とは、「無数の」「ありとあらゆる色絵の具」ということからわかるよ  
うに、山の紅葉の色の多彩さということですよ。

「無数の」「ありとあらゆる色絵の具」|| 山の紅葉の色の多彩さ

同じ山の紅葉の多彩さを述べた「(一般に紅葉の名所と呼ばれる)  
楓の鮮紅ひとろに塗りつぶされる土地よりは多彩で、豊満で」とあ  
る表現に注目すれば、これを使って、「山の紅葉の色が多彩で豊満で  
あること。」のように説明できるでしょう。

このような比喩表現の意味するところを正確にとらえていくこと  
が、随筆の読解では非常に重要です。

## 解答

問一 A ウ B イ

問二 山の紅葉の色が多彩で豊満であること。

M · E · M · O

「要点」で学習した内容をふまえ、実際の問題にどのようにアプローチしていくかを見ていきましょう。

## アプローチ

↳ 選択肢問題

随筆において、主題に関する「選択肢問題」を解く際は、次の点に注意しましょう。

### ポイント 随筆の主題に関する「選択肢問題」

- ・ 具体的な出来事・事柄が、どのように描かれているかをつかむ。
- ・ 具体的な出来事・事柄の記述から、筆者の伝えたいことをつかむ。

この二点について、次の文章を読みながら考えてみましょう。

### 今回の文章

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問題文の説明として最も適切なものは次のア～エのうちどれでしょうか。

- ア 偏差値に裏切られた苦い経験をもとに偏差値人間だった過去の自分を振り返り、その生き方を反省している。
- イ 自分が今医者であるのは偏差値に裏切られたおかげだと考え、そのことに感謝の思いを抱いている。
- ウ 偏差値を信じそして裏切られた自分の経験を通して、偏差値重視の問題点を指摘している。

エ 偏差値にとらわれていた自分の半生を振り返り、学校での偏差値教育のあり方を批判している。

まずは、次の作業を通じて筆者の主張を「見える化」しましょう。

手順1 中心的な話題となっている事柄について、筆者の考えが表れた記述をピックアップする。

 見える化しよう

- ・ 偏差値の高い生徒が偉い
- ・ 偏差値は仲のよい友人だった
- ・ 「偉い」生徒とそうでない生徒をきつぱりと分けてくれる魔法使
- いのような存在
- ・ 努力すればただけ偏差値が上がる。なんと公平な人物評価の尺度なのだろう
- 《大学受験後》
- ・ 偏差値に裏切られた
- ・ 人間の価値を数字なんかで表せるはずはないし、努力してもどうにもならないことが人生には多い。もし偏差値人間のままでいたら、こんなあたりまえのことが分からなかったはずだ。

問題文で一貫して話題となっているのは「偏差値」である。そして筆者の「偏差値」についての考え方は、自身の大学受験をきっかけに変化したことがわかる。

手順2 具体的な出来事の記述を通して筆者が伝えたい内容を、文章の展開に注意してチェックする。

### 🔍 見える化しよう

今、私は偏差値をうらんではいない。ちょうどいい時期に裏切ってくれたものだと感謝している。人間の価値を数字なんかで表せるはずはないし、努力してもどうにもならないことが人生には多い。もし偏差値人間のままでいたら、こんなあたりまえのことが分からなかったはずだ。

努力すれば必ず報われると考える医者たちは患者の死を敗北とみなす。これこそ偏差値人間の思い上がった発想であり、こんな医者が日本にはまだまだ多いのである。

手順1で見た大学受験の経験を通して、筆者はどのような考えを抱くようになったか？

↓自分が「偏差値人間のまま」でいたら「あたりまえのことが分からなかったはずだ」という記述、また「偏差値人間の思い上がった発想」をもつ医者が「日本にはまだまだ多い」とあることに着目し、「偏差値」重視の問題点を指摘していることを読み取る。

手順3 選択肢を部分に分け、各部分が問題文の内容に沿っているかを確認する。

### 🔍 見える化しよう

① 偏差値を信じていた自分

← ② 大学受験で偏差値に裏切られた経験

← ③ 偏差値を重視することからくる誤った考え方は、医者の世界にも多く見られることの指摘

問題文全体の流れと、そこから引き出された主題の結びつきを確認する。

↓①～③をすべて含んだウが正解。

選択肢全体の正誤を整理すると、次のようになります。

**選択肢をチエック!**

ア 偏差値に裏切られた苦い経験をもとに偏差値人間だった過去の自分を振り返り、<sup>×</sup>その生き方を反省している。

イ <sup>×</sup>自分が今医者であるのは偏差値に裏切られたおかげだと考え、そのことに感謝の思いを抱いている。

ウ <sup>○</sup>偏差値を信じそして裏切られた自分の経験を通して、偏差値重視の問題点を指摘している。

エ 偏差値にとらわれていた自分の半生を振り返り、<sup>×</sup>学校での偏差値教育のあり方を批判している。

ア 信じていた偏差値に裏切られることで、それまでの考えの誤りに気づいたことは述べられていますが、かつての自分を反省したり、悔やんだりしたことは書かれていません。

イ 偏差値に裏切られたことで医者の道に進んだわけではないので不適切。

エ 「学校での偏差値教育のあり方を批判している」が不適切です。偏差値を重視した進学指導を受けたことは書かれていますが、学校教育のあり方を批判した記述は見あたりません。

**アプローチ**

↳ 記述問題

比喩などの修辞法に関する「記述問題」を解く際は、次の点に注意しましょう。

**ポイント** 修辞法に関する「記述問題」

・筆者が強調したい内容を確認して説明する。

この点について、同じ文章を読みながら考えてみましょう。

**今回の文章**

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

今回は、傍線1「偏差値に裏切られたのである」という比喻(擬人法)の意味することを記述解答としてまとめます。どのような手順でアプローチしていくかを見ていきましょう。

まずは、次の作業を通じて比喻表現を「見える化」しましょう。

手順1 比喻で表されているものが何かを確認する。

### 見える化しよう

結果、私はA大に落ち、見たことも聞いたこともないB大学医学部というところに入ることになった。<sup>1</sup>偏差値に裏切られたのである。

「<sup>1</sup>(た)のである」という傍線部末尾の記述に着目すれば、傍線部



は直前の記述を言い換えたものだとわかる。つまり傍線部で比喩的に表されているのは、「A大に落ち」たことである。

**手順2** 比喩に用いられている言葉の意味から、筆者がどのようなことを強調したいのかをおさえる。

**🔍 見える化しよう**

- ・「あなたの偏差値は東大医学部の合格確実圏に入っています」と、係の人から告げられた。  
厚顔な私でも遠慮は知っていたから、
  - 「二浪は嫌なので一ランク下のA大医学部に行きます」と、答えていた。
  - 「A大医学部なら、あなたはたぶん首席でしょう」と、係の人は笑っていた。
- ⇔
- ・結果、私はA大に落ち、見たことも聞いたこともないB大学医学部というところに入ることになった。

「裏切る」という言葉は〈約束や期待、予想に反する〉という意味だから、「偏差値」が期待させていたものとは何かを探す。

↓「偏差値」の観点では、「私」は「東大医学部」に「合格確実」とさ  
れていたことがわかる。実際には「私」は「一ランク下のA大医学

部」を受験したので、さらに合格は確実なはずであったが、落ちてしまった。

↓「偏差値に裏切られた」とは、偏差値に合格を約束されたのに、実際には落ちてしまったという、予想に反した結果のことを言っているのだとわかる。

**▼解答に必要な要素**

- ① 偏差値では合格確実だと判断されていた  
…「偏差値」が私に〈予想させていたこと〉をわかりやすく示す。
- ② 大学に落ちた  
…〈裏切る〉という表現に対応する、〈予想しない結果〉を示す。

**【解答例】**

偏差値では合格確実だと判断されていた大学に落ちたこと。

**⚠️ つまずき防止**

比喩表現について説明する問題では、その表現が指す内容だけを解答するのでは不足です。手順2で見たように、比喩表現に用いられた言葉の意味自体をしっかりと考えて、対象となる事柄と比喩表現がどう結びついているのかがわかるように説明しましょう。

次のページで「練習問題」に取り組みましょう。

**練習問題**

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 傍線(1)とありますが、筆者はなぜ「自由教育」が「教育の名に値しない」と言うのですか。その理由として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。

- ア やりたいことだけをやっていても、社会へ出て仕事をするうえで役に立つ実用的なことが身につかないから。
- イ 子どもにはこれから学ぶことの価値がまだわからないため、大人が価値を判断して教え込むことが必要だから。
- ウ やりたいことをやらせるだけでは、得意な内容に偏り、努力して苦手な課題に取り組まないから。
- エ 生まれたままの状態を克服するために知的作業という不自然な努力を課す、教育本来の意味に反しているから。
- オ 外国語のように、日常の中で触れる機会が少ない事柄について、学ぶ機会が失われてしまうから。

問二 傍線(2)とありますが、筆者は「教育」における「外国語の機能」をどのような点に見いだしていますか。三十字以内で書きなさい。


解説

問一 筆者の考える「教育」とはどういうものか、そして「自由教育」とはどういうものかとらえられればよいでしょう。それぞれについて説明した箇所を問題文から探すと、次のような記述が見つかります。

問題文の「」を見よう！

学校での勉強（教育）

現代における修業で、人間は生まれたままの状態にしておいてはだめだから、**自然を克服**するために、**知的作業という不自然なことを**課している  
(26～28行目)

⇔

自由教育

生徒にやりたいことをやらせ、したいことをさせる  
(31行目)

|| 自然

ここから、教育は〈生まれたままの状態（||自然）を克服するため  
の不自然な行為〉でなくてはならないと筆者が考えていることがわか  
ります。それに対して、「自由教育」は、「生徒にやりたいことをやらせ、  
したいことをさせる」から理解されるように、自然にまかせてしまう  
教育法です。〈生まれたままの状態（||自然）を克服するために不自然  
なことをする〉という教育の意味を無視している点で、「自由教育」  
は「教育の名に値しない」と言えるのですね。

選択肢を手エック！

- ア やりたいことだけをやっていても、**× 社会へ出て仕事をするう**  
**えで役に立つ実用的なことが身につかないから。**
- イ **× 子どもにはこれから学ぶことの価値がまだわからないため、**  
**大人が価値を判断して教え込むことが必要だから。**
- ウ やりたいことをやらせるだけでは、**× 得意な内容に偏り、努力**  
**して苦手な課題に取り組まないから。**
- エ **Ⓢ** 生まれたままの状態を克服するために知的作業という不自然な  
努力を課す、**教育本来の意味に反しているから。**
- オ 外国語のように、**× 日常の中で触れる機会が少ない事柄につい**  
**て、学ぶ機会が失われてしまうから。**

アイ筆者は学ぶ内容の実用性や価値を子どもが判断できないこと  
を問題にしているではありません。またウオのように生徒の選択  
に任せたことで学ぶ内容に偏りが出ることを問題視しているのでも  
ありません。不自然な努力を課すことが教育の意味であることと  
らえたエが適切です。

問二 「外国語」についての筆者の考えを示している箇所に注目しな  
う。

問題文の「」を見よ！

・ 外国語ほど、われわれにとって、遠くて不自然な世界はない

(39・40行目)

・ もっとも有効な教育手段

(41・42行目)

・ 通訳や会話の役に立たなくても、われわれの無反省な生活が自然、

野放図に伸びていくのに対する刺激となるならば、それで結構

(42～44行目)

とあります。傍線部を含む一文で、「例外的な人の場合は除いて」とありますが、「通訳や会話」などで、外国語の知識を常時「実用」に役立っている人は「例外的」だというのですね。しかし、そのように「実用」に役立たなくても、学校で習う外国語は、そうした（遠くて不自然な世界に触れることで、無反省な生活の刺激になる）だけで十分教育の意義がある、とっているわけです。解答にはこの点を簡潔におさえましょう。

▼解答に必要な要素

① 遠く不自然な世界に触れること

… 外国語が「遠くて不自然な世界」であることをおさえる。

② 無反省な生活の刺激となる

… 外国語に触れることが、「無反省」「自然」なわれわれの生活への刺激となることをおさえる

③ 点。

… 設問の問い方に合わせた文末とする。

解答

問一 工

問二 遠く不自然な世界に触れることで、無反省な生活の刺激となる点。

(30字)

今回は、記述問題にしぼったトレーニングに取り組みましょう。  
記述指導に長年の実績があるZ会が、独自のプログラムで、差が  
つく記述力を鍛えます。

**例題**

次の問題文を読んで、あとの問に答えなさい。

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)





---

次のページでポイントを確認しましょう。

## 解答解説

以下の順に、記述に必要なポイントを確認していきましょう。

- ポイント① Aの要素は書いているか
- ポイント② Bの要素は書いているか
- ポイント③ Cの要素は書いているか
- ポイント④ 解答の骨組みをおさえているか

ポイント① Aの要素は書いているか

「まるまる視覚化！」のA⇨筆者の経験についての説明がきちんとできているか、くわしく見ていきましょう。

筆者が実際に体験したことについて述べた箇所からとらえる

「誰彼にやたらに追い抜かれる」「奮起して、追い抜かれまいと踏み出す足に力を入れる」「先刻の苛立ちや不満が急に愚かに思われてくる」↓散歩中にやたらに追い抜かれ、むきになり、苛立ちや不満を感じた

**例** 散歩をしていて、やたらに追い抜かれてむきになり、苛立ちや不満を感じてしまった

散歩中、追い抜かれて必死で歩くが、虚しい努力に終わり、いらいらして不満を感じた

## 差がつくポイント！

反省の内容について問われているので、傍線部直前の「自然に老いて

いけばいいのだ、という日頃抱く考えを実行するのは意外に難しい仕事なのかもしれない」という説明だけをまとめてしまいがちです。しかし、反省は、「散歩」という筆者の経験をふり返ったことから生じているので、「散歩」で経験したことも過不足なく説明する必要があります。制限字数を意識しながら、文章全体を通して説明に必要な要素をきちんと取り上げることができるかどうか、差がつくポイントになります。

ポイント② Bの要素は書いているか

ポイント①に続き、「まるまる視覚化！」のB⇨筆者の信条についての説明がきちんとできているか見ていきましょう。

筆者の日頃の考えを筆者の考えを述べた箇所からとらえる

「自然に老いていけばいいのだ」「静かに間違いなく老いていく」とを課題として老年を生きる」↓自然に老いていけばいい

**例** 自然に老いていけばいいという日頃の考え

年齢相応に老いれればいいとする筆者の日頃の信条

ポイント③ Cの要素は書いているか

ポイント②に続き、「まるまる視覚化！」のC⇨筆者の感想についての説明がきちんとできているか見ていきましょう。

Bの考えを持つ筆者がAを経験したことで感じたことを、筆者の考えを述べた箇所からとらえる「日頃抱く考えを実行するのは意外に難しい仕事なのかもしれない」↓日頃抱く考えを実行するのは難しい

**例** 日頃抱く考えを実行するのは難しい  
**例** 自分の考え通りにならない

ポイント④ 解答の骨組みをおさえているか

解答の基本的な骨組みとなるのは、「まるまる視覚化！」にあったA(筆者の経験)からB(筆者の信条)についてC(信条の)実行は難しい」と感じた、という形式です。全体的な骨組みをおさえられているか、自分の解答をチェックしましょう。

解答の骨組みⅡ AからBについてCと感じた

ポイント①〜④をふまえた模範解答は次のとおりです。自分の解答と見比べてみましょう。

**解答例1**

散歩中に次々と追い抜かれてむきになり、苛立ちや不満を感じてしまった経験から、自然に老いていけばいいという日頃の自分の考えを実行するのは難しいと感じたこと。(77字)

**解答例2**

自然に老いればいいといつも考えているのに、散歩の途中で他人にやたらに追い抜かれて苛立ちや不満を感じてしまい、なかなか自分の考え通りにはいかないと思ったこと。(78字)

他の人の解答を採点してみよう！

模範解答を確認して、ポイント①〜④が理解できましたか。理解度をチェックするために、次は、他の人の解答を採点してみましょう。

問 次の解答を、ポイントごとに「問題なし〇」「不足あり△」の二段階で採点して、空欄に○または△を書きなさい。

**目指せ満点！ あすなるさんの解答**

散歩をしていて、周りの人の歩く速度との違いから、自分の老いを感じて溜息をつき、日頃抱く考えを実行するのは意外に難しい仕事なのかもしれぬ、と思ったこと。(75字)

- ポイント① Aの要素は書けているか
- ポイント② Bの要素は書けているか
- ポイント③ Cの要素は書けているか
- ポイント④ 解答の骨組みをおさえているか

- ① ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
- ② ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
- ③ ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )
- ④ ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( ) ( )

## 解答解説

ポイント① Aの要素（≡筆者の経験）は書けているか

↓  
△不足あり

散歩中の経験に着目していますが、そこで感じた「苛立ち・不満」とその原因についての説明が不十分です。散歩中に次々と追い抜かれ、苛立ちや不満を感じた」という経験をわかりやすく説明しましょう。

ポイント② Bの要素（≡筆者の信条）は書けているか

↓  
△不足あり

「日頃抱く考え」とは言っていますが、「自然に老いていけばいい」という具体的な内容を説明できていません。

ポイント③ Cの要素（≡筆者の感想）は書けているか

↓  
○問題なし

筆者の日頃の考えと散歩のできごととの比較から導いた感想（≡C）になっています。

ポイント④ 解答の骨組みをおさえているか

↓  
○問題なし

「AからBについてCと感じた」という骨組みになっています。

M · E · M · O

「一貫標準」の問題です。

二

次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

(50点)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

問一 傍線(a)～(d)のカタカナを漢字に直して書きなさい。(各2点)

問二 傍線(1)とありますが、ここでの「記者氏の捏造」とはどういうことを指しているのですか。五十字以内で説明しなさい。(8点)

問三 傍線(2)とありますが、「これ」はどのような内容を指していますか。六十字以内で説明しなさい。(10点)

問四 傍線(3)とありますが、何を「だまされた同業他紙記者諸氏に対する思いやり」と言っているのですか。最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(6点)

- ア ウラをとらずに記事にしたという筒井氏の指摘には触れなかったこと。
- イ 結果的に出たらめを記事にしてしまったことを黙殺していること。
- ウ 取材の方法に落ち度はなかったと他紙の記者を擁護していること。
- エ 筒井氏は「本人」にはなりえない人物だと非難していること。

問五 傍線(4)とありますが、「おかしい」という筆者の考えの説明として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(6点)

- ア 「本人のことは本人に聞け」という言葉を用いる対象を間違っている。
- イ 朝日新聞の記者が他紙の記者に対して思いやりを表すのはよくない。
- ウ 「本人のことは本人に聞け」としながらも厳密な取材をしていない。
- エ 「本人のことは本人に聞け」という新聞記者の取材の方法は間違っている。

問六 傍線(5)とは何を指しているのですか。文中から最も適切な一語を抜き出して書きなさい。(6点)

問七 問題文における筆者の立場として適切でないものを次の中から選び、記号を書きなさい。(6点)

- ア 新聞の取材に対しては出たらめを言ってもかまわない。
- イ 直接事件と関係のない無責任な立場の人間の発言を鵜呑みにするのはうかつである。
- ウ 新聞の取材に対して嘘をつくのは記者がウラをとろうとしないからである。
- エ 官憲と新聞を同一視してしまうのは非常によくないことである。
- オ 甲子園という疑似事件に節度を失っている新聞に対して誠実に対応する必要はない。



M · E · M · O

「一貫発展」の問題です。

- 二 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい(①～⑪は段落の番号を表します)。(50点)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

(著作権の都合により、問題文を掲載しておりません)

注 \*癰…：黄色ブドウ球菌によっておこる化膿性かのうせいの炎症がひろがったもの。

問一 傍線(a)～(d)のカタカナは漢字に、漢字はひらがなに直して書きなさい。(各2点)

問二 傍線X「十把一からげ」の意味に最も近い熟語を次の中から選び、記号を書きなさい。(2点)

- |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|
| ア | 綿密 | イ | 粗略 | ウ | 丁重 |
| エ | 乱雑 | オ | 丹念 |   |    |

問三 傍線(1)とありますが、どのような点が「荒っぽい」のですか。  
七十字以内で説明しなさい。(12点)

問四 傍線(2)とありますが、どのようところが「ひどかった」のですか。  
六十字以内で説明しなさい。(10点)

問五 傍線(3)とありますが、これはどういうことを言おうとしているのですか。  
最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(5点)

- ア 西瓜には西瓜なりの知恵があり、生物としての戦略を持っているということ。
- イ 西瓜はその辺に放り出しておくことで最もおいしくすることができるということ。
- ウ 西瓜は人間に食べられるために自然な状態で存在しているものだということ。
- エ 西瓜には西瓜の自然な姿、本来の姿があり、それがあべき姿であるということ。

問六 問題文には、野菜に対して擬人法が用いられている箇所がいくつかありますが、筆者はそれによってどのようなことを強調しようとしていると考えられますか。  
四十字以内で説明しなさい。(8点)

問七 問題文の段落構成として最も適切なものを次の中から選び、記号を書きなさい。(5点)

- ア 

1	2	3
---	---	---

 | 

4	5	6	7
---	---	---	---

 | 

8	9	10	11
---	---	----	----
- イ 

1	2
---	---

 | 

3	4	5
---	---	---

 | 

6	7
---	---

 | 

8	9	10	11
---	---	----	----
- ウ 

1	2	3
---	---	---

 | 

4	5	6
---	---	---

 | 

7	8	9	10	11
---	---	---	----	----
- エ 

1	2	3	4	5	6	7
---	---	---	---	---	---	---

 | 

8	9	10	11
---	---	----	----

M · E · M · O

# 解答用紙

無断転載



この答案の添削有効期限は

です。

※解答は、濃く、はっきりと記入ください。

随筆：表現・文章展開  
添削問題 2

2/2枚目  
PLT3C1-S1D2

総得点  
32 / 50

PLT3C1-S1C2

「渦」

4 / 8

問一

(a)

鍛

(b)

禍中

4 / 8

(c)

誘

(d)

惑

「誇(り)」

「新聞記者が」という主語を明確にします。

5 / 8

問二

と	い	ま	自
。	こ	載	分
	こ	せ	が
	ま	る	取
	で	の	材
	書	い	に
	は	は	答
	な	え	た
	り	く	こ
	し	、	こ
	て	言	を
	し	、	そ
	ま	て	の
	う	い	の
	こ	な	ま

ただ書くのではなく、「新聞記事にする」という点を明確にします。

■ □ 要素ごとの出来をチェック

- ① 「筆者が実際には言っていないことまで勝手に書く」と(捏造)の示す内容をおさえられたか。↓○
- ② 「新聞記者が、筆者のコメントとして記事にしてしまう」ことをおさえられたか。↓△

文章の内容がむずかしかったので問題を解くのがむずかしかった。  
問三

添削者より

取材のあり方というデリケートなテーマを扱った文章のため、難しく感じたかもしれないね。問三は指示語の示す内容を、直前だけでなく大きな範囲でとらえることが重要です。漢字も含め、間違えたところは丁寧に復習をして、次につなげましょう。

添削者名  
長泉

5/10  
問三

筆	そ	た	せ
者	れ	の	よ
が	に	だ	う
取	つ	と	し
材	い	し	た
で	て	こ	こ
嘘	は	記	こ
の	記	者	。
こ	者	に	
と	が	責	
を	勝	任	
言	手	も	
い	に	お	
、	書	わ	

← 「複数の新聞」取材である点を明確におさえます。

複数の新聞取材に対するコメントに「統一性がなかった」こともおさえましょう。

-2

-3

■ □ 要素ごとの出来をチェック □ ■

- ① 筆者が「複数の新聞の電話取材にそれぞれコメントした」ことをおさえられたか。 ↓ △
- ② 筆者のコメントが「でたためて統一性のないものであった」ことをおさえられたか。 ↓ △

6/6  
問四

ウ



「本人のことは本人に聞け」という取材の原則の通りに記者たちは話を聞いたのだから、記者が悪いわけではない、という記事の内容をおさえられています。

0/6  
問五

エ

エⅡ取材の方法自体が「まちがっている」とは言っていない。「本人」とは「事件の渦中にある人」であり、「無責任な立場の人」である自分は「本人」の対象にはならない、という筆者の説明をとらえます。

6/6  
問六

小説家



「嘘をつくりあげることが仕事」Ⅱ「小説家」である筆者には、「真実を語るはず」という原則は通じなかった、という文脈を正しくとらえることができましたね。

6/6  
問七

ウ



ウの「記者がウラをとろうとしない」という内容は、新聞取材を受けてみてわかった「結果」であり、筆者の立場とは異なる、ということに正しく着目できています。